

交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

第12回 教員も実感する牧場体験の“教育力”

乳牛の息づかいや酪農家の汗を感じ 心豊かに育つ子どもたち

地域交流牧場全国連絡会理事(元・日野市教育委員会委員) 西田 敦子

1999年7月1日、会場で高らかに読み上げられた地域交流牧場全国連絡会(交牧連)設立の宣言文は今も手元にあります。当時、私は東京都の日野市公立小学校の校長でした。全国各地から集まった大勢の酪農家に圧倒されながら、「どうか、牧場という素晴らしい学びの場を子どもたちに提供してください」とあいさつした日を思い出します。

その頃の教育現場では、児童・生徒の問題行動やいじめなどに悩み、「心の教育」とりわけ「命」の学びをどう実践するかを模索していました。体験などを通して課題を見つけ、その課題を追求する活動を通して「生きる力」を育もうとする「総合的な学習の時間」が新設されたのもこの時期です。(一社)中央酪農会議の提唱で酪農関係者と教育関係者が一緒になって酪農教育ファームを全国的な組織で取り組もうとしていることを知った私は、自分の求める教育の実践がそこでならできると思い、活動への仲間入りをしたのです。

子牛の生きようとする力に児童も教師も感動

小中学生を引率して、また小学生の仲良しグループや保護者、教師、もちろん自分の家族も誘って、たくさんの交牧連会員の牧場を訪ねました。酪農家の皆さんは温かく迎えてくださり、それぞれの牧場ならではの楽し



教師たちだけで行った酪農体験での一コマ



子牛に餌を与える子どもたち。初めて体験で緊張していたがやがて笑顔に

い酪農体験を提供。そして愛情を持って健康な乳牛を育てていることや牛乳の素晴らしさ、酪農家としての夢などを語ってくれました。

大きな牛に聴診器を当てて「命の音」を聞いたり、牛の凍結精子と受精卵を顕微鏡で見て「生命の誕生」について学んだりする体験も行いました。

生まれたばかりの子牛に出会うこともありました。立ち上がろうとしては倒れ、またヨロヨロと足を踏ん張って立ち上がる子牛の姿に、すさまじいほどの「生きようとする力」を感じて、子どもも教師も感動。子どもたちは、毎日給食で飲む牛乳が子牛たちから分けてもらったものであることや、搾りたての乳が温かいことなどに気付き、その後、牛乳を飲む様子も大きく変わっていきました。

体験した人を幸せにする不思議な力

子どもたちは体験の始めこそ緊張気味でこわごわしていますが、それがすぐに驚きの表情に変わり、気付けば笑顔になり喜々として友達と会話を交わすようになります。体験した事、驚いたり感動した事、

気付いたり考えた事を他の人に伝え、共有したいのです。牧場での本物の体験によって子どもたちが得るものは、大人が考える以上に大きいようです。

さまざまな理由で困難を抱えていた子どもたちが、子牛や経産牛と触れ合い、牛乳を使って食事をつくり、酪農家と親しく話すうちに次第に心を開き、元気になって本来の自分を取り戻していく姿もたくさん見えました。体験後は発展的な学習を活発に行い、次に学びたい事が見つかりました。牧場の堆肥で野菜を育て、楽しい収穫祭も行いました。

息子がうれしそうに酪農体験について話す様子を胸を熱くした父親は、さっそく自分が所属するボーイスカウトで酪農体験を行いました。妻と子どもが酪農体験したことを喜ぶ単身赴任中の父親からは、自分も家族と牧場に行きたいと書かれたメールが届きました。酪農体験の後に牧場で拾った栗のイガでサッカーに興じた小学生は、中学生になり職業体験で牧場を希望したそうです。

形はさまざまですが、牧場での体験はみんなを「幸せ」にしました。それが酪農体験の不思議な力、すなわち「教育力」だと思っています。

ICT時代だからこそ本物の体験を

近年、小学校では1年時からタブレットなどの端末を1人1台持って学習に活用しています。操作の仕方を教え合いながら学習する風景は新鮮です。プログラミング教育も進んでいます。

しかし、パソコンで酪農に関する知識はすぐ得られますが、乳牛の温かさや息づかい、堆肥や牧草のにおいは伝わってきません。牛の世話をする酪農家の汗も見えません。

情報化が進む社会で子どもたちが心豊かにたくましく育つには、今まで以上に「本物に出会い、本物から学び、本物に感動する体験」が大切なのです。酪農教育ファームでの本物の体験はますます重要になり、交牧連の役割は強まるでしょう。

酪農教育ファームはSDGsの最適な学び場

今日の学校教育の大きな役割は、一人一人の子どもを持続可能な社会のつくり手に育てることです。SDGs(国連が定めた持続可能な開発目標)の学習は日本の教育の主要な柱となっています。この学びは社会や地域の人との交流の中で深めることが大切です。酪農教育ファーム活動はSDGsの最適な学び場として、今後、社会や学校から一層注目され活用される



自分でつくったバターをパンに塗り、牛乳で乾杯する子どもたち。堆肥で育てた野菜でサラダもつくった

でしょう。そのような時、酪農家の皆さんの力になるのは一緒に学び考え、行動する交牧連の仲間ではないでしょうか。

昨年秋に交牧連が東京・豊洲公園で開催したイベントに来場した人々の表情は明るく晴れやかでした。その中で交牧連の仲間たちはひときわ輝いていました。同じ時期に全国研修会で視察した東京都八王子市の磯沼ミルクファームでは、後継者の娘さんが酪農で地域を活性化させ、地域の信頼をさらに高めており、感激しました。

今年度もたくさんの若い人が酪農教育ファームファシリテーター認証を申請しています。交牧連が活動の輪を大きく広げるのはとても喜ばしいことです。牛乳も乳製品も牧場も多くの人に愛されていますし、子どもたちは酪農体験が大好きです。

酪農界では難しい問題がたくさんあるでしょうが国民は応援しています。皆さん、頑張ってください。



交牧連設立当初から酪農教育ファーム活動の推進に力を入れる西田さん

プロフィール にしだ あつこ

1939年生まれ、東京都出身。小学校教員を26年間、管理職を12年間務め、適応指導教室に6年間勤務。2010～22年まで日野市教育委員会委員を務めた。酪農教育ファーム推進委員会および交牧連の設立当時から酪農教育ファーム活動の推進に携わる。牛が好き、酪農家が好き、牧場が好き、酪農体験を喜ぶ子どもの姿がさらに好きで今日に至る。2000年から現職。元・全国公立小・中学校女性校長会会長、現・全国退職女性校長会顧問

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先

(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
メール:koubokuren@churaku.jp
ホームページ:https://www.dairy-farm.jp/
フェイスブック:https://www.facebook.com/koubokuren



【交牧連 HP】